

Ganbare Nihongo Learning Japanese

youtube Live 第一回

参加者: のりえ先生、じゅんこ先生、ももこ先生、そよこ先生

テーマ: 私はこのアニメで育ちました

テキストスクリプト

のりえ先生: はい。じゃあ、さっそく始めていきましょう。

一同: はい。

のりえ先生: それでは、えーと、皆さん、こんにちは。

一同: こんにちは。

のりえ先生: えっと今日は、私のりえと、ももこ先生、そよこ先生、じゅんこ先生が参加しています。よろしくお願いします。

ももこ先生・じゅんこ先生: お願いします。

そよこ先生: よろしくをお願いします。

のりえ先生: では今日のテーマは「私はこのアニメで育ちました」というテーマです。はい、皆さんどんなアニメを知っていますか？

(笑い声)

のりえ先生: じゃ、えっと、初めに誰かからいきましょう。私からいきましょうか。

ももこ先生: はい。

のりえ先生: はい。えーと、私はですね、あの、子供の頃、一番好きだったアニメはドラゴンボールです。

ももこ先生: ふうん。

そよこ先生: おっ。

のりえ先生: はい。今も好きです。

ももこ先生: ふうん。

そよこ先生: めっちゃ好きです。

のりえ先生: あ、そうですか。

(笑い声)

のりえ先生: そうなんです。で、私は女の子なんですけど、男の子のアニメがとても好きだったのでえーっと「ジャンプ」っていう漫画の雑誌があったんですけど、それを弟と一緒に毎週楽しみにして見ていました。

ももこ先生: うん。

じゅんこ先生: ああ、そうですか。

のりえ先生: そうなんです。

じゅんこ先生: うん。

のりえ先生: で、あの、アニメでもドラゴンボールやっていたんですけど私はリアルタイムでドラゴンボールを見ていましたので、第1回からテレビで見えていました。

そよこ先生: うん。

ももこ先生: へえ、1回から？

じゅんこ先生: そうですか。

のりえ先生: そうです。はい。そうなんです。年がばれてしまいますけれども。

(笑い声)

じゅんこ先生: あれって何年ぐらいからやってたんですか？

ももこ先生: おっ。

のりえ先生: えーっとね、ちょっとね、定かではないんですけども小学生でしたね。

そよこ先生: うん。

じゅんこ先生: 小学生でしたか。

のりえ先生: そうです。はい。で、小学生の時に、かめはめ波とかね、あの皆さんご存知だと思うんですけども。はい、もう誰もがかめはめ波を練習したっていう。

(笑い声)

のりえ先生: してませんね。私はしました。

そよこ先生: しました、しました。

ももこ先生: しましたよ。

じゅんこ先生: あ、してたんだ。私はしてないよ。

(笑い声)

じゅんこ先生: でも私はジャンプで読んでました。

のりえ先生: あ、読んでましたか？

じゅんこ先生: うん。読んでました。

のりえ先生: じゅんこ先生は何を読んでいましたか？

じゅんこ先生: えっと、ドラゴンボールの前に、あの、「アラレちゃん」がありましたよね。

そよこ先生: 「アラレちゃん」。大好きでした。

じゅんこ先生: そう。だから、まあ、鳥山明さんがデビューしたときは、ジャンプで、高校生だった、あの、アラレちゃんの時。

そよこ先生: うん。

のりえ先生: ええ、そうなんですか。

ももこ先生: じゅんこ先生、アラレちゃん見てた？

じゅんこ先生: うん。アラレちゃんをね。で、なんか、あの学校の、学校の机にアラレちゃん
のあの絵をね、描く。

そよこ先生: うん。うん。

じゅんこ先生: うん、で、それがすごく上手に描けてたのに、放課後に先生がね、消しちゃう
んですよ。

ももこ先生: ああ。

(笑い声)

のりえ先生: そりゃそうですよね。

(笑い声)

じゅんこ先生: そう。それは高校2年生でし、でしたね。うん。

のりえ先生: へえ。アラレちゃんも私すごく好きで。大人になってからもアラレちゃんを何度か見てるんですけど、すごく世界が平和で癒されるんですよ。

ももこ先生: ああ。

そよこ先生: 確かに。

じゅんこ先生: そうですね。

のりえ先生: ダイバーシティですね。

そよこ先生: はい。

じゅんこ先生: そうですね。はい。

のりえ先生: はい。ま、そんな感じで私はドラゴンボール、育ちました。

一同: ドラゴンボール。はい。

のりえ先生: はい。じゃあ、じゅんこ先生、この流れでいかがですか？

じゅんこ先生: はい。わかりました。私はもうほら、歳がね、違うのでね、私が子供のとき見てたのはやっぱり「アルプスの少女ハイジ」とか。

そよこ先生: ああ、やっぱり。

ももこ先生: 見てた。

じゅんこ先生: あの時代です。「フランダースの犬」とかね。

ももこ先生: 日曜、日曜劇場。

じゅんこ先生: 日曜日の、そうです、そうです。

そよこ先生: 宮崎駿さん。

じゅんこ先生: うん、そう、だから、あれは、いつもいい作品が多かったので、うん、いつも見てましたね。うん。あともう、もっと古いけど魔法のね、サリーちゃんとかさ。

のりえ先生: ああ。サリーちゃん。

ももこ先生: でも再放送してたので見てましたね。

じゅんこ先生: ああ、そうなんですか。

ももこ先生: うん、見てました。

じゅんこ先生: サラリー、サリーちゃんとか、あと「ひみつのアッコちゃん」とか。

のりえ先生: ああ、いいですね。テクマクマヤコンですね。

じゅんこ先生: うん、そうそうそうそう。

のりえ先生: 知ってますか。

ももこ先生: 知ってますよ。テクマクマヤコン、テクマクマヤコン。

じゅんこ先生: うん、そうそう。

のりえ先生: いや、懐かしいですね。

じゅんこ先生: 私の子供時代は、魔法の、うん、魔法使いが普通になんか住んでいて、学校にも来るみたいなね。

(笑い声)

そよこ先生: 「あなたの町にも来るかもしれません」の。

じゅんこ先生: だって、サリーちゃんなんて子供だけで住んでましたからね。

ももこ先生: ああ。弟たちと？

じゅんこ先生: 弟じゃないんだけど、ま、カブ、カブ、カブっていう子と、そしてポロンちゃんっていうのがいて、で、その3人が一緒に住んでたんですよ。だから信じられない世界です。

(笑い声)

のりえ先生: そうですよ。やっぱり魔法の練習しましたか？

じゅんこ先生: し、してない....。

(笑い声)

のりえ先生: してないですね。

(笑い声)

そよこ先生: なんかこういうね、棒とか売ってましたよね。

ももこ先生: うんうん。おもちゃの。

じゅんこ先生: 売ってましたっけ？あ、それは娘、娘の子供時代の、あの「セーラームーン」とか。

そよこ先生: ああ、その世代になっちゃうのか。

じゅんこ先生: うん、そうそう。そうです。

のりえ先生: アッコちゃんのコンパクトは私、持っていましたよ。

じゅんこ先生: あっ、そうね、それはありましたね。うん。

のりえ先生: ね。ありがとうございました。じゃあ次はももこ先生お願いします。

ももこ先生: あ、私。私は「ちびまる子ちゃん」かなって思いました。

一同: ああ。

ももこ先生: えーと、日曜日の6時だか6時半に毎週やってたので。

じゅんこ先生: 6時ですね。

ももこ先生: 6時。で、そのあと「サザエさん」。それを見るのが毎週の楽しみだったと思います。で、まるちゃんはももこ。えっ？作者、まるちゃんはももこですよ。

じゅんこ先生: ももこです。うん。

ももこ先生: 同じ名前なので親近感が湧いて好きでした。

じゅんこ先生: まるちゃんは私と同世代ですよ。

ももこ先生: あ、そうですか。

じゅんこ先生: うん。

のりえ先生: うーん、あ、そうですか。

じゅんこ先生: あ、お風呂であの、ピンカラ兄弟の歌をうたう、歌うシーンがあって。あの「女のみち」という歌をね、お風呂の中でお父さんと歌うんですよ。そのシーンを見た時に、あ、同世代なんだなって思った。

ももこ先生: ああ。

(笑い声)

ももこ先生: 作者の子供のときの話ですよ。

じゅんこ先生: そうですね。

ももこ先生: 確かね。

のりえ先生: まるちゃんもいいですよ。クラスメイトが絶対いそうな感じなんですよ。

ももこ先生: キャラクターがそうですね。

のりえ先生: そう。あの全員が、ちょっと何か個性があるというか。

じゅんこ先生: うんうん。

のりえ先生: 本当に完璧な人っていないんですよね。小学生こんな子いるっていう感じで、すごく。小学生のときに見ていて、感情移入しちゃうというか、あ、いるいるこんな子みたいな。

じゅんこ先生: うん。

のりえ先生: で、まるちゃんってなんかすごく小さなことで、ちょっと悩んだりすることあるじゃないですか。

ももこ先生: あー、確かに。

のりえ先生: そういうのもすごく共感できるっていう感じがします。

一同: うんうん。ふうん。

のりえ先生: はい。

じゅんこ先生: おじいちゃんが良かったんですよね。

ももこ先生: 友蔵、心の俳句ですね。

じゅんこ先生: そうそうそう。

(笑い声)

ももこ先生: そうですね。

そよこ先生: ほんとう、なんか、小学校の生活が、こう、くっつき描かれてる作品でしたね。

じゅんこ先生: ですね。

ももこ先生: そう。だから作者のさくらももこさんが亡くなったとき、結構悲しかったですね。

じゅんこ先生: うん。そうですね。

のりえ先生: はい。じゃあ次はそよこ先生お願いします。

そよこ先生: はい。はい。あの私、皆さんが挙げられたのは全て私もこれって思ってたんですけど、えっと、それ以外で言うと、ちょっと毛色が全然変わるんですけど「一休さん」。

一同: 一休さん？一休さん。

じゅんこ先生: 一休さんは、私の世代ですよ。

そよこ先生: そうですか。なんか一休さん、まあ、結構繰り返し見てたというか。なんか、すごく好きで、なんか、何て言うんでしょう、お侍さんが出てきて將軍様が出てきて、お坊さんが出てきて、あの、日本のなんか古い街並みがでてきてっていう世界がすごく好きで。で、なんか、一休さんの眉がね、すごく太いんですよ。で、うち家系がすごく眉太の人が多かったの
で、なんか眉が太いと親近感があるっていう。

(笑い声)

そよこ先生: そんな感じで見てましたね、うん、うん。

のりえ先生: みんなあの、これしませんでした？

そよこ先生: ああ、しました。しました。

のりえ先生: 考える時に頭に指を置いて。

ももこ先生: え、それ知らない。なんですか？

そよこ先生: え、本当ですか。

じゅんこ先生: ポンポンポン。なんか、みんな、ポンポンポンみたいな音になってね。

そよこ先生: ピーンって。

のりえ先生: で、ひらめくんですよ。

ももこ先生: え、見たことないのかな。

そよこ先生: 將軍様が足利義満？3代義満なんですね。金閣寺を作った人。だから、なんか調べたら、結構海外でも一休さんすごく見て、見られてるみたい。人気のアニメみたい。

じゅんこ先生: あーそうなんだ。

そよこ先生: 意外と一休さんを知っている外国の方も多くいらっしゃるみたい。

じゅんこ先生: なんか、シャーリー・マクレーンが一休さんの、なんか、あの、なんて言うんですか？前世が一休さんだったか一休さんの彼女だったかなんか忘れたけど、シャーリー・マクレーンはね。

(笑い声)

ももこ先生: 一休さんの彼女。

(笑い声)

のりえ先生: 一休さんね、アニメではあんな可愛らしいですけど、あの、実際のところはあの結構あの変わりもののおじさんだそうなんですよ。

じゅんこ先生: そうみたいです。

ももこ先生: 実在の人物ってことですよね？

そよこ先生: うんうん。

じゅんこ先生: そうですそうです。

のりえ先生: そうみたいです。なんかあの本当かどうか聞いた話によると、お坊さんだけでも、あの結構お金が好きだったり、あの女性が好きだったりという、ちょっとお坊さんらしからぬ方だったらしいです。

じゅんこ先生: そうね。お坊さんっていうか、なんか預けられてたんだよね。特殊な人だったから。

のりえ先生: ああ、そうなんですか。

じゅんこ先生: そう。だからお母さんと中々会えないっていう設定だったでしょ。

のりえ先生: ああ、そうですね。

じゅんこ先生: そうそうそう。そうなんです。なんか多分なんか侍か何かの子供なんだけど、政治的な理由で寺に預けられてたんです。

ももこ先生: ふうん。

のりえ先生: そうなんですか。勉強になりますね。歴史の話になりましたね。

じゅんこ先生: そうですね。

のりえ先生: はい。ありがとうございます。はい。こんな感じであと何か、このアニメは言っておきたいみたいな、ありますか？

ももこ先生: まあ、一応みんな大人気の「ONE PIECE」とかも見てましたけど。

じゅんこ先生: ONE PIECE。

ももこ先生: で、今は「鬼滅の刃」とかはもう見なくなっちゃって、私は見てないですけどね。

じゅんこ先生: わたし、きのうONE PIECE見たよ。朝から。

(笑い声)

のりえ先生: え、朝？

ももこ先生: きのう？

じゅんこ先生: 朝、日曜日の朝にやってるでしょ。

のりえ先生: へえ。

じゅんこ先生: 昨日、昨日見ました。

のりえ先生: ちょっとONE PIECEは、私、長すぎて、もう途中で。

ももこ先生: あ、そうですね。私も途中で辞めちゃいましたけど。

じゅんこ先生: そうそうそう。でも、なんかそのまま流れてるんです、朝は。
(笑い声)

のりえ先生: でもね、みんなの話を聞くと見なきゃなっていう思いはあるんですよ。

じゅんこ先生: うーん、見なくていいですよ。

(笑い声)

じゅんこ先生: うん、長いから。長いから。

ももこ先生: 長すぎますね。

のりえ先生: ねえ、長いですよ。

じゅんこ先生: だから、見るんだったら「NARUTO」の方がいいかも。

のりえ先生: ああ。NARUTOはね。

じゅんこ先生: あの、日本語を教えるにあたって「NARUTO」が好きな人は多いから。

ももこ先生: あ、そうなんだ。「NARUTO」が人気なんですね。

じゅんこ先生: うんうん。

のりえ先生: NARUTOがちっちゃい頃は見ていました。NARUTOがちっちゃい頃ですね。

じゅんこ先生: はいはいはい。

ももこ先生: それも長そうですね。

のりえ先生: 長いんですよ。大人になってからもあるんですよ。

じゅんこ先生: そうそうそう。NARUTOの子供のボルトの話もあるからね。

のりえ先生: あ、そうですね。

そよこ先生: あ、子供いる？

ももこ先生: じゅんこ先生詳しいですね。

じゅんこ先生: うん。私アニメ詳しいんです実は。

ももこ先生: そうだったんだ。

(笑い声)

のりえ先生: そうですか。まあ私ね、子供がいるのでね、あの子供が今見てるのはポケモンかドラえもん。

じゅんこ先生: あ、そうなんだ。

ももこ先生: おお、うちはまだアンパンマンですね。

のりえ先生: あ、アンパンマンです？

ももこ先生: まだ小っちゃいから。はい。

のりえ先生: まあ、日本人の子供は必ず見る。

ももこ先生: まずアンパンマンからかな。

のりえ先生: そうですね。アンパンマンは絵が描きやすいからいいですよ。

じゅんこ先生: そうですね。うん。

のりえ先生: お弁当にアンパンマンの、アンパンマン弁当みたいなのが作ります、作りますよね。作りました？

(笑い声)

ももこ先生: そういう面倒なことは私はしない。

(笑い声)

じゅんこ先生: でもアンパンマンは、もう私の娘の時代にももうあったのでね、絵はよく描いたけど。

のりえ先生: そうですね。絵が簡単だからあのお弁当も簡単なんですよ。

じゅんこ先生: あ、そっかそっか。

ももこ先生: ああ、喜びそうですね。

のりえ先生: そうですそうです。そんなに手間がかからないし、で、すぐできちゃうっていう。

ももこ先生: キャラ弁。

のりえ先生: キャラ弁ですね。アンパンマンしかしたことないですけど。

ももこ先生: おお。

(笑い声)

のりえ先生: 特別な時ですよ。

ももこ先生: うーん、ああ、なるほど。いいですね、それも。

のりえ先生: うーん。そうですね。じゃあこれぐらいにしておきましょうか。はい。

じゅんこ先生: そうですね。じゃあ。

のりえ先生: ね、たくさんアニメの話が出てきたので、またね、あの、何かコメントなどいただけると嬉しいです。

一同: はい。

のりえ先生: ありがとうございます。それでは。

じゅんこ先生: はい、じゃあどうもありがとうございました。

ももこ先生: はーい。

のりえ先生: ありがとうございました。
